

平成 29 年度全国学力・学習状況調査(中学校)

国語 A

主として「知識」に関する問題

平均正答率

市 79%
国 [77.4%]
県 (78%)

区分別定着状況

【話すこと・聞くこと】76.8% [75.4%] (76.2%)
【書くこと】85.5% [85.7%] (86.5%)
【読むこと】75.2% [73.8%] (74.2%)
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】79.2% [77.2%] (78.1%)
※ [] 内は全国平均を, () 内は県平均を表します。

正答率の高い設問(上位3問)

- 目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる
(問5二) 92.0% [92.7%] (93.1%)
- 目的に応じて資料を効果的に活用して話す
(問2一) 90.6% [87.8%] (89.2%)
- 文章の表現について自分の考えをもつ
(問8一) 88.4% [81.9%] (82.7%)

正答率の低い設問(下位3問)

- 相手に分かりやすいように語句を選択して話す
(問7一) 51.4% [54.0%] (53.9%)
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読む
(問6二) 62.3% [60.1%] (59.0%)
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読む
(問6一) 70.3% [74.8%] (75.2%)

国語 B

主として「活用」に関する問題

平均正答率

市 76%
国 [72.2%]
県 (73%)

区分別定着状況

【話すこと・聞くこと】74.9% [72.4%] (73.0%)
【書くこと】65.0% [60.8%] (61.7%)
【読むこと】76.8% [72.1%] (72.4%)
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】48.6% [41.4%] (41.7%)
※ [] 内は全国平均を, () 内は県平均を表します。

正答率の高い設問(上位3問)

- 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読む
(問1二) 92.8% [84.1%] (84.5%)
- 目的に応じて資料を効果的に活用して話す
(問2一) 87.0% [85.4%] (85.8%)
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する
(問1一) 84.1% [84.1%] (84.4%)

正答率の低い設問(下位3問)

- 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く
(問1三) 48.6% [41.4%] (41.7%)
- 事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す
(問2三) 63.8% [57.6%] (59.5%)
- 話の論理的な構成や展開などに注意して聞く
(問2二) 73.9% [74.2%] (73.6%)

結果からいえること

○考察

国語A、国語Bともに全国平均を上回っており、これらの学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後、国語Aに関しては、語句の学習の際には辞書を用いて意味を確認させるだけではなく、文脈における意味についても捉えさせたり、文学的な文章を読む際には、目的に応じて、時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、描写などに注意して詠むように指導したりする必要があります。

また、国語Bに関しては、スピーチをする際には、自分の伝えたいことが聞き手に対して十分に伝わる内容や表現の仕方になっているかを考えて話を構成し、場の状況や聞き手の様子に応じて話すようにさせること、互いのスピーチを検討する際には、話の内容や話し方について評価するだけでなく、互いに質問し合い、改善点を助言し合うようにすることの指導を充実させる必要があります。